



SEE MORE JESUS • WANTTOSEEMORE.COM

復活の主 — ストロング番号付きKJV聖書study

十字架、証拠、そして再臨 — なぜその死はそうでなければならなかったのか、そして次に何が来るのか
聖書の基礎教理 — イエス・キリストの福音

開会の言葉

なぜイエスは死なねばならなかったのか。空の墓は何を証明したのか。彼が再び来られるとき、何が起るのか。この学びはこの三つの問いを聖書に持ち込み、聖書自身の言葉によって聖書にそれらに答えさせる。

この学びは、なぜ血が流されなければならなかったかを取り上げる。この学びは、彼がどれほど低く下られたか、そして十字架が彼に何を要したかを取り上げる。この学びは、父が子を神と主と呼ばれたことを取り上げる。この学びは、主がダビデの主に語られたことを取り上げる。この学びは、死からよみがえられたキリスト、そして彼が救われた人々の中に生きておられるキリストを取り上げる。この学びは、彼の再臨と、永遠に続く選択を取り上げる。

本研究が答える三つの問い:

1. イエスの死はなぜ血によるものでなければならず、もっと簡単な方法ではいけなかったのですか。
2. ダビデは詩篇110篇1節で、どうして自分の子を自分の主と呼ぶことができたのですか。
3. 復活は何を証明し、イエスが再び来られるとき何が起こりますか。

OPENING ANCHOR(冒頭のアンカー)

テモテへの第一の手紙 2:5 神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。(6) 彼は、すべての人のあがないとしてご自身をささげられたが、それは、定められた時になされたあかしにほかならない。

唯一の神+神と人との間の唯一の仲保者、人なるキリスト・イエス。

(私個人の考え: 仲介者(引き離された二つの当事者の間に立ち、両者を和解させる者)は、両方の当事者に完全に属していなければならない。そうでなければ仲介者として働くことはできない。テモテ前書2章5節が仲介者について何と言っているかを見てほしい。「人なるキリスト・イエス」である。イエス・キリストは人でなければならない。そうでなければ人間が立つ場所に立ち、人間としての死を死ぬことができない。コリント人への第二の手紙5章19節がその死の内側にあった真実として何と言って

いるかを見てほしい。「神はキリストにあって」とある。イエス・キリストは神でなければならない。そうでなければ彼の死は単にもう一人の人間が死ぬというだけのことであり、誰に対しても救い(罪とその罰からの救出)をもたらさない。だからこそ「イエスとは誰か」という問いへの答えは、学者だけのための些細な問題ではない。救いの教理全体が、その問いへの答えにかかっているのである。)

H. なぜその死はそうでなければならなかったのか — 神への架け橋

H1. 問題を明確に述べる

イザヤ書 59:2 ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。

ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。

ローマ人への手紙 3:23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、
すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており。

H2. なぜ血なのか、もっと簡単な方法ではなかったのか

ヘブル人への手紙 9:22 こうして、ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。

原語キー / **STRONG' S:** ■ G859 aphesis

血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。

レビ記 17:11 肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上で、あがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。

肉の命は血にあるからである --> 血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。

ヘブル人への手紙 10:4 なぜなら、雄牛ややぎなどの血は、罪を除き去ることができないからである。

なぜなら、雄牛ややぎなどの血は、罪を除き去ることができないからである。

(私自身の思い:この三つの聖句を並べてみると、古代の犠牲の制度全体が自ずと説明される。命は血の中にある。罪は命の代価を要する。古代において、動物の犠牲は贖い(罪を一時的に覆い、神の前でのその人の立場を回復するもの)を、来る日も来る日も、何百年もの間もたらしていた。ヘブル人への手紙は、動物の犠牲が罪を決して取り除くことができなかったことをはっきりと述べている。それでは、あの動物の犠牲はいったい何のためだったのか。動物の犠牲は、罪の負債が目に見える形で未払いのまま保たれるようにしていた。動物の犠牲は、命が支払われるべきであることを繰り返し、日々思い起こさせる長い教えであった。動物の犠牲は、罪の負債を完全に支払うことのできるただ一つの死が来るまで、その思い起こしを保ち続けていた。)

H3. 彼はどこまで低く下られたか

ピリピ人への手紙 2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。(6) キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、(7) かえって、おのれをむなしくして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、(8) おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

神のかたちであられたが --> おのれをむなしくして僕のかたちをとり --> しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

(私個人の考え:ピリピ人への手紙2章6-8節にある下降の順序に注目してほしい。イエスは神の形であられた。イエスは名声を空しくされた。イエスはしもべの形をとられた。イエスは人間の姿をとられた。イエスはへりくだられた。イエスは従順になられた。イエスは死なれた。パウロはさらに、文としては厳密には必要のなかった二つの言葉を付け加えた。「しかも十字架の死にまで」。イエスが死なれたと単に述べるだけでは、パウロにとって十分ではなかった。イエスの死の具体的な様態こそが、パウロの論点の一部なのである。)

H4. 実際に彼が払った代価 — 前もって語られ、そして後にまた語られた

イザヤ書 50:6 わたしを打つ者に、わたしの背をまかせ、わたしのひげを抜く者に、わたしのほおをまかせ、恥とつばきとを避けるために、顔をかくさなかった。

わたしを打つ者に、わたしの背をまかせ --> 恥とつばきとを避けるために、顔をかくさなかった。

詩篇 22:16 まことに、犬はわたしをめぐり、悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を刺し貫いた。(17) わたしは自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて、わたしを見る。(18) 彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする。

彼らはわが手とわが足を刺し貫けり。彼らはわが衣を分かち、わが衣服のことにて籤を引きけり。

マタイによる福音書 27:35 彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いて、その着物を分け、
彼らは彼を十字架につけ、籤を引きてその衣を分けたり --> これは成就せんためなり。

ヨハネによる福音書 19:34 しかし、ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れた。

槍が彼のわき腹を刺した⇒すると、ただちに血と水が出て来た。

(私自身の考察:ダビデは詩篇22篇で、刺し貫かれた手と足について書いた。ダビデは詩篇22篇で、兵士たちが衣服を分け合うことについて書いた。ダビデがこれを書いたのは、イスラエルの誰かが十字架刑を目にする千年も前のことだった。ダビデは自分自身に起こった出来事を描写していたのではない。マタイはそれから何世紀も後、イエスの十字架刑が起こった後に書いた。マタイは、兵士たちが詩篇22篇に描かれた通りのことをしたと記している。マタイは兵士たちがそうした理由を述べている、「これは成就するためであった」と。この二つの記述を合わせて読んでほしい。ダビデは時を先取りして自分の記述を書いたのであり、十字架刑が起こることを知る術は全くなかった。マタイは十字架刑を振り返って自分の記述を書いたのであり、十字架刑が起こったことを否定する術は全くなかった。)

H5. その死は何のためであったか — 悲劇ではなく、橋である

ローマ人への手紙 5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。(9) わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神の怒りから救われるであろう。(10) もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2644 katallasso

我らなお罪人たりし時、キリストは我らのために死に給えり。我らはその子の死によりて神と和らげり。

コリント人への第二の手紙 5:18 しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。(19) すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。(20) 神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。(21) 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G2643 katallage

神はキリストにあって世をご自分に和解させられた --> 罪を知らなかった彼を、私たちのために罪とされた。

H6. 竿の上の蛇 — 彼がご自身に当てはめた古い型

民数記 21:8 そこで主はモーセに言われた、「火のへびを造って、それをさおの上に掛けなさい。すべてのかまれた者が仰いで、それを見るならば生きるであろう」。(9) モーセは青銅で一つのへびを造り、それをさおの上に掛けて置いた。すべてへびにかまれた者はその青銅のへびを仰いで見て生きた。

すべてかまれた者は、それを仰ぎ見るならば生きるであろう。

異なる視点、同じ場面 — 荒野の竿と、丘の上の十字架

ヨハネによる福音書 3:14 そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。(15) それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」。(16) 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。(17) 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければならない。それは彼を信じる者が滅びることのないためである。

(私自身の考え:民数記21章とヨハネによる福音書3章のこのつながりは、この study が考え出したものではありません。イエスご自身が、ご自分のアイデンティティについて、この結びつきを直接、はっきりと語られました。荒野で死にゆく人々は、自分自身を正すようにとは言われませんでした。荒野で死にゆく人々は、勇敢であるようにとは言われませんでした。荒野で死にゆく人々は、治療を勝ち取るようにとは言われませんでした。荒野で死にゆく人々は、神が竿の上に掲げられたものを見上げよと言われました。荒野で死にゆき、それを見上げた者は生きました。さて、この二つの場面を合わせて心に留め、奇妙な点に気

づいてください。竿の上に掲げられた青銅の蛇は、それを見た人々を死なせつつあったまさにその物の形をしていました。パウロは十字架について、同じように奇妙な真理を語っています。パウロは、イエスは罪を知らなかったにもかかわらず、私たちのために罪とされた、と言っています(2 コリント人への第二の手紙5:21)。治療は、呪いと同じ形をして掲げられたのです。)

1. 父ご自身が御子を「神」また「主」と呼んでおられる

11. ヘブル人への手紙 1:1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、(2) この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。(3) 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

神は御子によって私たちに語られた。また御子によって世界を造られた。御子は神の栄光の輝き、また神の本質の真の姿である。

12. ヘブル人への手紙 1:5 いったい、神は御使たちのだれに対して、「あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ」と言い、さらにまた、「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となるであろう」と言われたことがあるか。(6) さらにまた、神は、その長子を世界に導き入れるに当って、「神の御使たちはことごとく、彼を拝すべきである」と言われた。

原語キー / **STRONG' S:** ■ G4416 prototokos

いったい、神は御使たちのだれに対して、「あなたこそは、わたしの子。きょう? --> 彼を拝すべきである」と言われた。

(私の個人的な考え:ヘブル人への手紙の第一章全体は、一つの長い論証を展開している。その論証とは、御子は天使ではなく、これまでも決して天使ではなかったということである。この点は、「主の使い」と呼ばれる人物について多くのページを割いて学んできたばかりの研究において、注目に値する。ヘブル語のマラクという言葉は、使いの務めを意味する。神ご自身の御子は、旧約聖書のある時点でその務めを果たされた。しかし、ヘブル人への手紙の著者は、誰にも御子を被造物である天使の中に分類させようとはしない。天使たちは御子を礼拝するようにと命じられている。)

13. ヘブル人への手紙 1:8 御子については、「神よ、あなたの御座は、世々限りなく続き、あなたの支配のつえは、公平のつえである。(9) あなたは義を愛し、不法を憎まれた。それゆえに、神、あなたの神は、喜びのあぶらを、あなたの友に注ぐよりも多く、あなたに注がれた」と言い、(10) さらに、「主よ、あなたは初めに、地の基をおすえになった。もろもろの天も、み手のわざである。(11) これらのものは滅びてしまうが、あなたは、いつまでもいますかたである。すべてのものは衣のように古び、(12) それらをあなたは、外套のように巻かれる。これらのものは、衣のように変るが、あなたは、いつも変ることがなく、あなたのよわいは、尽きることがない」とも言われている。

しかし御子については、「神よ、あなたの御座は世々限りなく続く」と言われる。また、「主よ、あなたは初めに地の基を据えられた」と言われる。

(私の個人的な考え:ヘブル1:8の最初の五つの言葉をもう一度読んでみよう。「されど御子については」。この文は、ヘブル書の著者がイエスについて述べた意見ではない。この文は、父なる神が御子に直接語りかけたことを記録している。父なる神は御子を「神よ」と呼ぶ。父なる神はさらに御子を「主」と呼ぶ。父なる神はその上、地と天を造ったことを御子に帰している。もし誰かが、御子は聖書の中で決して神と呼ばれていないと主張したいのであれば、その人は、父が御子を神と呼んでいるこの節に向き合わなければならない。)

異なる視点、同じ場面 — 王のために書かれた歌と、父がその御子に引用された言葉

詩篇 45:6 神から賜わったあなたの位は永遠にかぎりなく続き、あなたの王のつえは公平のつえである。(7) あなたは義を愛し、悪を憎む。このゆえに神、あなたの神は喜びの油をあなたのともがらにまさって、あなたに注がれた。

神から賜わったあなたの位は永遠にかぎりなく続き --> あなたの神は喜びの油をあなたのともがらにまさって、あなたに注がれた。

詩篇 102:25 あなたはいにしえ、地の基をすえられました。天もまたあなたのみ手のわざです。(26) これらは滅びるでしょう。しかしあなたは長らえられます。これらはみな衣のように古びるでしょう。あなたがこれらを上着のように替えられると、これらは過ぎ去ります。(27) しかしあなたは変ることなく、あなたのよわいは終ることがありません。

あなたはいにしえ、地の基をすえられました --> しかしあなたは変ることなく、あなたのよわいは終ることがありません。

(私の個人的な考え:ここは、二つの箇所を並べて読むことが本当に意味を持つ箇所です。詩篇45篇は婚礼の歌です。詩篇102篇は苦難の中にある人の祈りです。詩篇102篇では、その言葉は世界を造られたイスラエルの神、主に向けて語られています。ど

これらの詩篇もベツレヘムでのイエスの誕生の何世紀も前に書かれました。ヘブル人への手紙1章は両方の詩篇を引用しています。ヘブル人への手紙1章は両方の詩篇を父なる神の言葉として提示しています。ヘブル人への手紙1章は両方の詩篇を御子に当てはめています。元の詩篇とヘブル人への手紙1章の引用との間にある言葉遣いの小さな違いに注目してください。聖書はこれらの小さな違いを隠していませんし、この study もそれらを隠しません。詩篇とヘブル人への手紙1章との間で変わらないのは、その言葉が誰について語られているかということです。)

J. 主はわが主に言われた — 論争を終わらせた聖句

J1. 詩篇 110:1 主はわが主に言われる、「わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ」と。(2) 主はあなたの力あるつえをシオンから出される。あなたはもろもろの敵のなかで治めよ。

原語キー / **STRONG' S:** ■ H3068 Yehovah ・ ■ H113 adown

主はわが主に言われる、「わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで --> わたしの右に座せよ」と。

(私自身の思い:詩篇110篇1節のこの一行は、一読しただけでは分からないほど多くの意味を含んでいます。英語では、両方の語とも「Lord」と印刷されています。その違いを示す唯一の手がかりは、大文字表記です。最初の語は大文字で、LORDと印刷されています。二番目の語は大文字では印刷されていません。この英語の下には、実は二つの異なるヘブライ語があります。最初のヘブライ語は、神の契約の名であるヤホバ(H3068)です。欽定訳(KJV)では、大文字表記は常に、その背後にあるヘブライ語がヤホバであることを意味します。二番目のヘブライ語はアドン(H113)であり、主人や支配者を意味する語です。ここで使われているアドンの形は「わが主」と読めます。この詩篇を記したダビデは、神が、ダビデ自身が「わが主」と呼ぶある人物に語りかけておられることを記録しています。ここで率直な問いを考えてみましょう。ダビデはイスラエルの王でした。彼の主とは誰だったのでしょか。この答えは、神がキリストを、後の世代においてダビデ自身の家系から出すと約束されたことを思い出すと、さらに奇妙に思えてきます。人は普通、自分のひ孫を「わが主」とは呼ばないものです。)

J2. 彼は自らそれについて彼らに尋ねられたが、誰も答えることができなかった

マタイによる福音書 22:41 パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった、(42)「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか」。彼らは「ダビデの子です」と答えた。(43) イエスは言われた、「それではどうして、ダビデが御霊に感じてキリストを主と呼んでいるのか。(44) すなわち『主はわが主に仰せになった、あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、わたしの右に座していなさい』。(45) このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるなら、キリストはどうしてダビデの子であろうか」。 (46) イエスにひと言でも答えうる者は、なかったし、その日からもはや、進んでイエスに質問する者も、いなくなった。

このように、ダビデが彼を主と呼んでいるなら、どうして彼はダビデの子であろうか --> ひと言もこたえ得る者がなかった。

(私の個人的な考察:マタイ22章41-46節で、イエスはパリサイ人たちに、御自身が發した問いの答えを告げなかった。イエスは問いを發し、その問いを未解決のまま残された。その問いは今なお答えられておらず、それでもなお、その問いにふさわしい答えはただ一つしかない。キリストは肉によればダビデの子である。キリストは、ダビデが生まれる前にすでに存在していた方として、ダビデの主である。)

J3. ペテロは教会が始まった日に同じ聖句を用いた

使徒行伝 2:32 このイエスを、神はよみがえらせた。そして、わたしたちは皆その証人なのである。(33) それで、イエスは神の右に上げられ、父から約束の聖霊を受けて、それをわたしたちに注がれたのである。このことは、あなたがたが現に見聞きしているとおりである。(34) ダビデが天に上ったのではない。彼自身こう言っている、『主はわが主に仰せになった、(35) あなたの敵をあなたの足台にするまでは、わたしの右に座していなさい』。(36) だから、イスラエルの全家は、この事をしかと知っておくがよい。あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は、主またキリストとしてお立てになったのである」。

ダビデは天に上ったのではない --> 神は、あなたがたが十字架につけたこのイエスを、主またキリストとされたのである。

(私の個人的な考察:使徒行伝2章29-36節におけるペテロの論証は短い。ペテロの論証には何の巧妙さも必要ない。ダビデは、ある人が神の右に座することについて書いた。ダビデ自身は神の右に座するために上って行ったことはない。ダビデの墓を見に行くことができる、とペテロは数節前で語っている。それゆえ、この詩篇はダビデについてのものではなかった。ペテロは続けて、この詩篇が指し示していた人物の名を挙げる。ペテロは何の和らげもなく、この人物の名を挙げる。「あなたがたが十字架につけた、あのイエスを」。ペテロはこの人物を「主またキリスト」と呼んでいる。)

J4. 同じ詩篇がもう一つのことを述べている — そしてヘブル人への書はそれに基づいて一つの議論全体を築いている

詩篇 110:4 主は誓いを立てて、み心を変えられることはない、「あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である」。

主は誓いを立てて、み心を変えられることはない-->「あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である」。

ヘブル人への手紙 5:5 同様に、キリストもまた、大祭司の栄誉を自分で得たのではなく、「あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ」と言われたかたから、お受けになったのである。(6) また、ほかの箇所でもこう言われている、「あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である」。

同様に、キリストもまた、大祭司の栄誉を自分で得たのではなく、「あなたこそは-->「あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である」。

ヘブル人への手紙 7:3 彼には父がなく、母がなく、系図がなく、生涯の初めもなく、生命の終わりもなく、神の子のようであって、いつまでも祭司なのである。

生涯の初めもなく、生命の終わりもなく-->いつまでも祭司なのである。

ヘブル人への手紙 7:24 しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変らない祭司の務を持ちつづけておられるのである。(25) そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。

彼は永遠に存へ、易らざる祭司の職を保ちたまう-->彼は己によりて神に来る者を完全に救うことを得たまう。

(私の個人的な考え:一つの短い詩篇の中に非常に多くのことが含まれている。詩篇110篇は、ダビデが自分の主と呼ぶ方について、神の右の座に着いていると述べている。詩篇110篇は、シオンから治める王について述べている。詩篇110篇は、イスラエルの祭司職よりも古い位に属する、永遠の祭司について述べており、神はこの誓いを取り消さないと誓われた。古代イスラエルにおいて、律法は王の職と祭司の職を分けて保っていた。その律法のもとでは、一人の人が両方の職を持つことは許されなかった。詩篇110篇は、両方の職を一人の人物に与えている。ヘブル人への手紙は、その人物が誰であるかを説明するために数章を割いている。)

K. 墓からよみがえり — そしてあなたの内に生きる

K1. その事実そのものと、それがどのように伝えられたか

コリント人への第一の手紙 15:3 わたしが最も大切なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであった。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、(4) そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと、

キリストは聖書に記して我らの罪のために死に、そして葬られ、三日目によみがえり給えり。

コリント人への第一の手紙 15:20 しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。

キリストは死者の中からよみがえり、眠っている者たちの初穂となられた。

K2. 復活が彼について証明したこと

ローマ人への手紙 1:3 御子に関するものである。御子は、肉によればダビデの子孫から生れ、(4) 聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められた。これがわたしたちの主イエス・キリストである。

肉によれば、ダビデの裔より生れ-->死人の中よりの復活により、大能をもて神の子と定められ給えり。

(私個人の考え:パウロはローマ人への手紙1章3-4節において、再び答えの両方の半部分を順序立てて一つの文の中に置いている。イエスは肉によればダビデの家系から来られた。イエスは墓から出ることによって、力をもって神の子と宣言された。どんな人でも自分は神の子であると主張することができる。しかし、死者の中からよみがえることによってその主張が証明されたのは、イエスただひとりだけである。)

K3. 旧約聖書が先に語った

詩篇 16:10 あなたはわたしを陰府に捨ておかれず、あなたの聖者に墓を見させられないからである。(11) あなたはいのちの道をわたしに示される。あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある。

汝が魂を黄泉に棄て置きたまわじ-->汝の聖者を朽ち果てしめたまわじ。

使徒行伝 2:29 兄弟 たちよ、族長 ダビデについては、わたしはあなたがたにむかって 大胆 に 言 う こと が できる。彼は死んで葬られ、現にその墓が今日に至るまで、わたしたちの間に残っている。(30) 彼は預言者であって、『その子孫のひとり王位につかせよう』と、神が堅く彼に誓われたことを認めていたので、(31) キリストの復活をあらかじめ知って、『彼は黄泉に捨ておかれることがなく、またその肉体が朽ち果てることもない』と語ったのである。

ダビデは死んで葬られた --> 彼はこれを見越して、キリストの復活について語った。

K4. そして今 — 彼は救われた人々の中に生きている

ローマ人への手紙 8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。

イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊があなたがたの中に住んでおられるなら --> あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださる。

ガラテヤ人への手紙 2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

わたしはキリストと共に十字架につけられた --> もはやわたしではなく、キリストがわたしのうちに生きておられる。

コロサイ人への手紙 1:27 神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。

原語キー / **STRONG' S:** ■ G3466 musterion

この奥義 = あなたの内におられるキリスト、栄光の望み。

ヨハネによる福音書 14:23 イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。

人もし我を愛せば我が言を守らん --> われらその許に來りて住處を為さん。

(私個人の考え:この研究の全体の流れを結論まで追ってみてください。イエスは万物が造られる前に父と共におられました。イエスは旧約聖書の中で人々に現れ、その人々は生き延びました。イエスは小さな町で女から生まれました。イエスは町の外、丘の上で、木にかけられて殺されました。イエスは墓から出て来られました。聖書は今、イエスが人々の内に生きておられると言っています。この結論こそ、この研究がずっと向かってきた到達点です。この研究の目的は、イエスが誰であるかについての議論に勝つことでは決してありませんでした。この研究の要点は、これらすべてである方が、あなたの内に住みたいと願っておられるということです。ヨハネ14:23にも注目してください。「わたしたちはその人のところに来て」とあります。創世記1:26で聖書の冒頭に現れた複数形の声が、ここにもなお存在しています。)

L. 彼は再び来られる — そして永遠に続く選択

L1. 彼は来られる、すべての目が彼を見る

使徒行伝 1:9 こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。(10) イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて(11) 言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」。

あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」。

ヨハネの黙示録 1:7 見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。しかし、アメン。

すべての目は彼を見る + 彼を刺した者たちも。

L2. テサロニケ人への第二の手紙 1:7 それは、主 イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。(8) その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復し、(9) そして、彼らは主のみ顔とその力の栄光から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受けるであろう。(10) その日に、イエスは下ってこられ、聖徒たちの中であがめられ、すべて信じる者たちの間で驚嘆されるであろう——わたしたちのこのあかしは、あなたがたによって信じられているのである。

原語キー / **STRONG' S:** ■ G1557 ekdikesis

燃える火の中に、神を知らない者、また福音に従わない者に報復をなし、その日主が聖徒の中にあがめられ、栄光を受けられるとき。

(私自身の思い:テサロニケ人への第二の手紙1章8節をゆっくり読んでみる。テサロニケ人への第二の手紙1章8節は、一つの集団ではなく二つの集団を挙げている。第一の集団は神を知らない。第二の集団は福音に従わない。知ることと従うことが、同じ節の中で一緒に挙げられている。同じ文の一部であるテサロニケ人への第二の手紙1章10節にも注目してほしい。ある集団にとっては火であるイエスの同じ来臨が、別の集団にとっては栄光である。これは一つの単一の出来事である。その出来事のどちら側に人が立つかは、後にではなく、今決まるのである。)

L3. ヨハネの黙示録 19:11 またわたしが見ていると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた。それに乗っているかたは、「忠実で真実な者」と呼ばれ、義によってさばき、また、戦うかたである。(12) その目は燃える炎であり、その頭には多くの冠があった。また、彼以外にはだれも知らない名がその身にしるされていた。(13) 彼は血染めの衣をまとい、その名は「神の言」と呼ばれた。

之に乗りたまふ者は忠実また真と呼ばれ --> その名は神の言と呼ばれたり。

ヨハネの黙示録 19:16 その着物にも、そのももにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた。

主の主」という名がしるされていた。

(私自身の思いですが:ヨハネの黙示録19章12節にある小さな一行に注目してください。イエスには誰も知らない名が記されていましたが、その名を知るのはイエスご自身だけでした。この研究に与えられている名前は、同じ箇所に見えています。それらの名は「忠実」また「真実」、「神の言葉」、「王の王、主の主」です。)

L4. 書物が開かれる

ヨハネの黙示録 20:11 また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御顔の前から逃げ去って、あとかたもなくなった。(12) また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かすかすの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。(13) 海はその中にいる死人を出し、死も黄泉もその中にいる死人を出し、そして、おのおのそのしわざに応じて、さばきを受けた。(14) それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。(15) このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた。

もろもろの書が開かれた + もう一つの書が開かれた、それはいのちの書である --> いのちの書に名の記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。

(私の個人的な考え:ヨハネの黙示録20章12節では、御座の前に二種類の書物が現れます。一つの書物は人々の行いを記録するものです。もう一つの書物は名前を記録するもので、命の書と呼ばれます。ヨハネの黙示録20章12節は、行いの書に書かれていたことによって誰かが救われたとは述べていません。ヨハネの黙示録20章15節は、結果を決定した唯一のことは、その人の名前が命の書に書かれていたかどうかであったと述べています。)

L5. 選択 — 聖書がこれ以上ないほど明確に語っていること

ヨハネによる福音書 3:18 彼を信じる者は、さばかれぬ。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

信じない者はすでに罪に定められている。

ヨハネによる福音書 3:36 御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。

御子を信じる者は永遠の命をもつ。

ローマ人への手紙 6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

罪の支払う報酬は死である --> しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

(私自身の考察:ローマ人への手紙6章23節は、この学び全体の中心となる聖句である。ローマ人への手紙6章23節は、二つの部分からなる一つの短い文である。罪には支払われるべき報酬があり、その報酬は死である。その支払いは二つの方法のどちらかでなされる。人が自分でその支払いを永遠に行うか、あるいはイエスが既に支払われたものを贈り物として受け取るかである。それが選択のすべてである。選ばないこともまた第一の道を選ぶことと同じであるゆえ、誰もその選択を免れることはできない。「我々は人を造ろう」という創世記1章26節の言葉から、ヨハネの黙示録20章の御座に至るまで、この学びのすべてが、その一つの決断へと積み上げられてきたのである。まだその決断を下す時間は残されている。イエスは今も呼びかけておられる。)

L6. 使徒行伝 4:12 この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。

この人による以外に救はない --> わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。

閉会

ヨハネの黙示録 22:17 御霊も花嫁も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。
御霊も花嫁も共に言った、「きたりませ」 --> いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。

ヨハネによる福音書 3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく --> 御子によって、この世が救われるためである。

(私個人の考え:聖書における最後の招きは、何の代価も要求しない。聖書における最後の招きは、誰にでも差し出されている。使われている言葉は「望む者」である。「望む者」という言葉は、意図的に誰も除外しない。これには、この study を読んでいる最悪の人物も含まれる。これには、何年も前からすでに「いいえ」と言い続けてきた人も含まれる。これらすべてであるイエスが、「来なさい」と言っておられる方である。人がしなければならぬことは、ただ来て、いのちの水を受けることだけである。)

練習クイズ

1. **ヘブル人への手紙9:22** — おきてによれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられ、
 - a) 肉の生命は血にあればなり
 - b) そして血を流すことなしには赦しはない
 - c) 血はすなわち魂のために贖罪をなすものなればなり
2. **ローマ人への手紙5:8** — しかし、私たちがまだ罪人であったときに、そのことによって神は私たちに対する愛を明らかにされた、
 - a) 彼によりて怒より救はれん
 - b) われらは御子の死によりて神と和解せしめられたり
 - c) キリストが私たちのために死なれた
3. **ヘブル人への手紙1:8** — しかし御子については、こう言われた、『神よ、あなたの御座は世々限りなく、』
 - a) 公義の杖は汝の国の杖なり
 - b) あなたの王国の杖は正しい杖である
 - c) その政は彼の肩にある
4. **詩篇110篇1節** — 主はわが主に言われた、あなたはわが右に座せよ:
 - a) われ汝の仇を汝の足台となすまでは
 - b) なんじの敵のなかにありて統べ治めよ
 - c) なんじの敵をなんじの足台とするまで
5. **コリント人への第一の書15章20節** — しかし今、キリストは死人の中から復活し。
 - a) そして眠った者たちの初穂となった
 - b) そして三日目に、聖書に従って、よみがえられたこと

c) また汝の聖者に朽敗を見ることを許されず

6. ヨハネの黙示録1章7節 — 見よ、彼は雲とともに来られる:

- a) そして雲が彼を彼らの目から隠して受け入れた
- b) すべての目、彼を見る
- c) そしてすべて信じる者たちの中で崇められるため

7. テサロニケ人への第二の手紙1章9節 — 主の御顔を離れて、永遠の滅びの刑罰を受ける者たち:

- a) その力の栄光から
- b) すなわち第二の死
- c) その威光の栄光のために

正解: 1-b, 2-c, 3-a, 4-c, 5-a, 6-b, 7-a

このスタディの分岐

--> 言葉がいかに重要であることを示す例:英語の一語「主」は、詩篇110篇1節において二つの異なるヘブライ語を表している。その二つのヘブライ語とは、ヤハウェ(H3068)とアドン(H113)である。マタイによる福音書22章45節でイエスが展開された議論全体は、この違いに基づいている。

これがあなたにどう当てはまるか:イエスは来られた方であるだけではありません。イエスは来られる方であるだけでもありません。イエスは今あなたのうちに生きたいと願っておられる方です(コロサイ人への手紙1:27、ガラテヤ人への手紙2:20)。

これが永遠にとって何を意味するか。罪の報酬は死である。神の賜物は、私たちの主イエス・キリストにある永遠のいのちである(ローマ6:23)。人が罪の負債を払う道は、この二つしかない。

--> 余談:詩篇110篇4節とヘブル人への手紙第7章は、メルキゼデクの祭司職に関する教理全体への入り口となっている。この教理は、律法よりも古く、神が取り消すことのない誓いによって誓われた、一人の人において王と祭司が結び合わされていることを描いている。この教理は、それ自体で一つの完全な学びに値する。

--> 寄り道:テサロニケ人への第二の手紙1章7~10節とヨハネの黙示録19章11~16節は、イエスの再臨に関する教理全体へと開かれている。この教理には、イエスの再臨の確実性、イエスの再臨の突然性、そしてイエスの再臨を待ち望めという命令が含まれる。はっきりと述べよ:聖書はイエスの再臨の確実性を述べており、イエスの再臨の日程を告げることは拒んでいる(マタイによる福音書24章36節、使徒行伝1章7節)。この働きもまた、イエスの再臨の日程を告げることを同様に拒む。

公開の招き — あなたが誰であっても、読み続けてください

このスタディを読むために、クリスチャンである必要はありません。多くのことがあなたをここへ導いたかもしれません。探求心があなたをここへ導いたかもしれません。ある議論があなたをここへ導いたかもしれません。長年抱えてきた問いが、あなたをここへ導いたかもしれません。誰か他の人の信仰への興味が、あなたをここへ導いたかもしれません。このウェブサイトにあるすべては、あなたのものです。無料で、あなた自身の言語で。私たちはあなたの名前を尋ねることはありません。私たちはあなたの国を尋ねることはありません。私たちはあなたが何を信じているかを尋ねることはありません。一つのスタディでイエスを完全に描き切ることはできません。私たちはこの問いに持てるすべてを注ぎ込みましたが、このスタディでもなお、聖書を通る一本の道を歩んだだけです。イエスは初めの前から存在していました。イエスは今も存在しています。イエスは再び来られます。そのすべてを描き切るページは、たった一つでは足りません。さらに多くのスタディがここに用意されています。憐れみについてのスタディがここに用意されています。知恵についてのスタディがここに用意されています。知識についてのスタディがここに用意されています。忍耐についてのスタディがここに用意されています。敬虔についてのスタディがここに用意されています。さらに多くのスタディが準備中です。これらのスタディはどの順番で読んでいただいても構いません。進めながら、私たちの引用元を確認してください。これらのスタディに載っているすべての聖句は、意図的に全文が印刷されています。あなたは私たちの言葉をそのまま信じる必要は決してありません。すべての聖句を、あなた自身で吟味することができます。

もう一つの招きがこの後に続く。その招きが隠されているふりはしない。その招きとは、人が救われるために何をすべきかについての学びである。今すぐそれを読みたいなら、今すぐ読んでよい。他のものを先

に読みたいなら、先に他のものを読んでよい。誰も数えてはいない。どちらにしても扉は開いたままである。パウロは、自分自身の神ではない神々の祭壇で満ちた町で、以下の言葉を語った。パウロは、その町に来てほしいと頼んだわけではない人々に、これらの言葉を語った。

使徒行伝 17:26 また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。(27) こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない。

神は一つの血よりすべての国々の人を造り出だし給えり --> これ彼らをして主を尋ね求めしめ、見出させんためなり + 主は我らおののより遠く離れ給わず。

ギリシャ語キーワード

“和解した” — **G2644 katallasso** — 敵意から友好へと変えること、また好意のうちに立ち返らせること
カタラッソーという言葉は、十字架の理由全体を一語で言い表している。

“和解” — **G2643 katallage** — 恵みの回復。分かれた両者を再び結び合わせること
カタラゲー(katallage)は、上記のカタラッソー(katallasso)と同じ語根から来ている。カタラッソーは和解の行為——引き離されていた二者の間の友情の回復——を表す言葉である。カタラゲーは、その和解の結果を表す言葉である。

“赦免” — **G859 aphasis** — 送り出すこと; 釈放; 解放; 赦し
血を流すことなしには、罪が送り去られることはない。

“神秘” — **G3466 musterion** — 秘密、かつて隠されていたが今は告げられたもの
聖書における奥義とは、決して解くべき謎ではない。聖書における奥義とは、神が明かすことを決めた秘密である。

“復讐” — **G1557 ekdikesis** — 公義より出づるもの; 不正の完全な正しき償い
ekdikesisはテサロニケ人への第二の手紙1章8節で用いられている言葉である。ekdikesisは制御されない怒りを意味するのではない。ekdikesisは完全に執行される正義を意味する。

“初子” — **G4416 prototokos** — 長子; 最初に生まれた者
父は御子について「神の使いたちはみな彼を拝すべし」と言われる。

ヘブライ語キーワード

“主” — **H3068 Yehovah** — 神の契約の名であり、欽定訳聖書では大文字の「主」として記されている
旧約聖書において「主」が大文字で表記されている箇所では、その英語の「主」という言葉の背後にあるヘブライ語の名は、エホバである。

“主” — **H113 adown** — 主; 主人; 所有者; 支配する者
詩篇110篇1節における「アドーン」の形は「わが主」と訳されている。アドーンはヤハウェとは異なるヘブル語であり、ヤハウェはこの箇所ではダビデの主に語りかけておられる。

SOURCES & CREDITS

Scripture: Kougo (Colloquial) (Public Domain (1955 口語訳聖書 — Japan Bible Society's own copyright page confirms the copyright protection period has ended; see registry/JAPANESE_LEGAL_PATH.md. Moral/integrity rights are preserved under Japanese law, so the text is rendered verbatim only, never altered -- pipeline.VERBATIM_LANGS.)) — a redistributable edition, looked up exactly and never machine-translated.

Alternate chapter/verse numbering reconciled with STEP Bible TVTMS (CC BY 4.0).

Strong's numbering & original-language data: OpenScriptures Hebrew Bible (CC BY 4.0); STEP Bible.org — TAHOT/TAGNT/TBESH/TBESG (CC BY 4.0); Robinson-Pierpont Byzantine Majority Text (Public Domain); Strong's dictionary, 1890 (Public Domain).

Typography: Google Noto fonts (SIL Open Font License 1.1).

© SEE MORE JESUS • wanttoseemore.com — shared under Creative Commons Attribution 4.0 (CC BY 4.0).